

令和3年度

公立高等学校入学者選抜

学力検査結果活用ガイド

～学習内容の確実な定着に向けて～

山梨県教育委員会

目 次

| | | |
|----------------------------|-------|----|
| I 調査の概要 | ----- | 1 |
| II 総合得点（全教科の合計点）の学力検査結果概要 | ----- | 1 |
| III 教科別学力検査結果および抽出調査・分析の概要 | | |
| 国 語 | ----- | 3 |
| 社 会 | ----- | 7 |
| 数 学 | ----- | 11 |
| 理 科 | ----- | 15 |
| 英 語 | ----- | 19 |

I 調査の概要

1 調査の目的

令和3年度山梨県公立高等学校入学者選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育を充実させるための資料とすることを目的とする。

2 学力検査実施日、調査教科

令和3年3月3日（水）

| | |
|-----------------------|-------------|
| 国語（55分） | 9：30～10：25 |
| 社会（45分） | 10：45～11：30 |
| 数学（45分） | 11：50～12：35 |
| 英語（45分、うち「リスニング」約12分） | 13：40～14：25 |
| 理科（45分） | 14：45～15：30 |

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学者選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員3,575人を対象としている。

なお、正答率調査については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は、361人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たってはすべての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の学力検査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

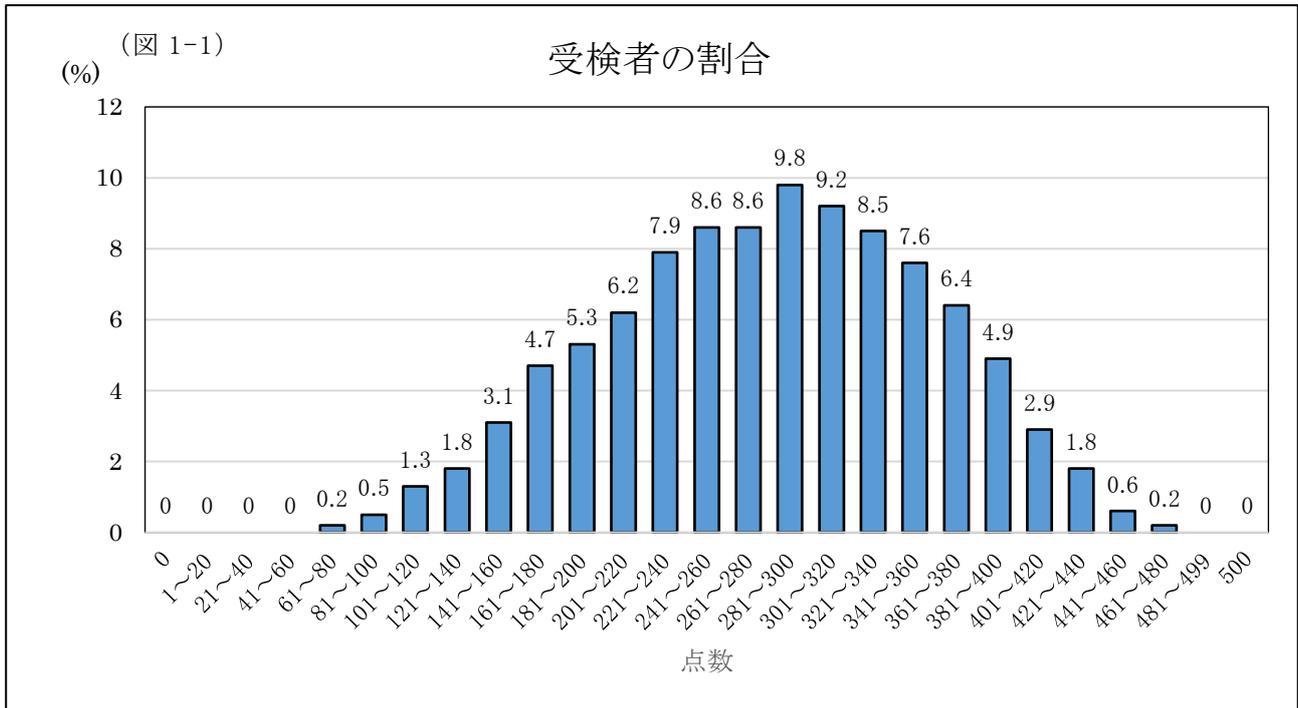
- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、それらを活用する力を検査することができるように出題した。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題した。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響による中学校等の臨時休業の実施等を踏まえ社会、数学、理科については、中学校3年生の学習範囲の一部を出題範囲から除くようにした。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力を検査することができるよう工夫した。
- ④ 全県的な視野にたつて出題し、地域差による影響が生じないようにした。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにした。

2 総合得点および教科別平均点、最高点、最低点（調査対象：3,575人）

| | 総合得点 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|-----|-------|------|------|------|------|------|
| 平均点 | 280.4 | 58.7 | 58.3 | 59.1 | 53.6 | 50.8 |
| 最高点 | 478 | 94 | 99 | 100 | 100 | 100 |
| 最低点 | 15 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |

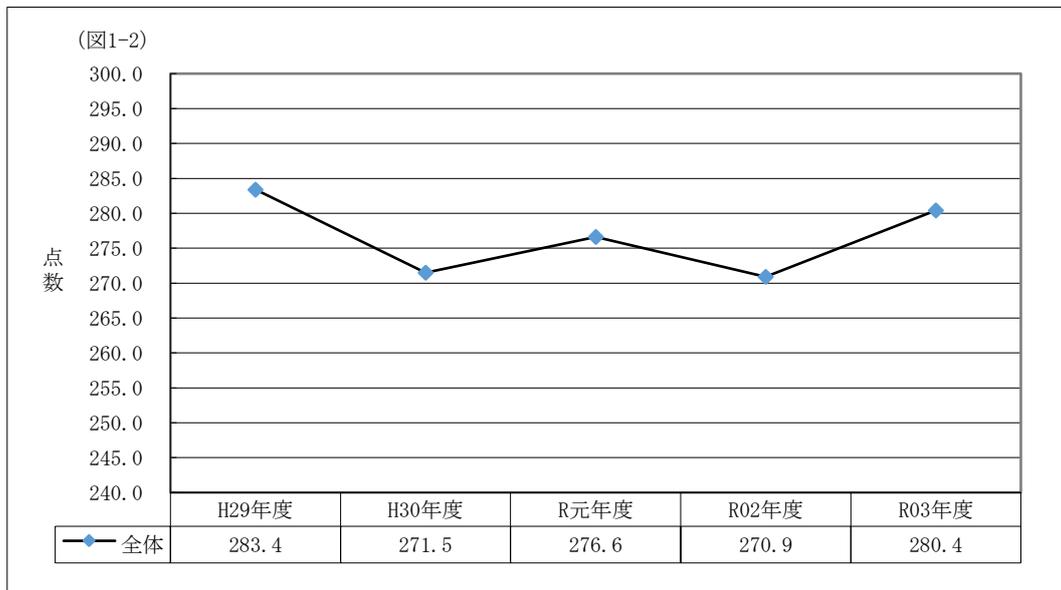
3 総合得点の得点分布（調査対象：3,575人）

総合得点の平均点は280.4点で、前年度より9.5点上がった。得点分布は（図1-1）に示すとおりである。



4 総合得点の平均点の推移（調査対象：各年度の5教科受検者全員）

平成29年度から今年度入試まで5年間の全体平均は（図1-2）のように推移している。



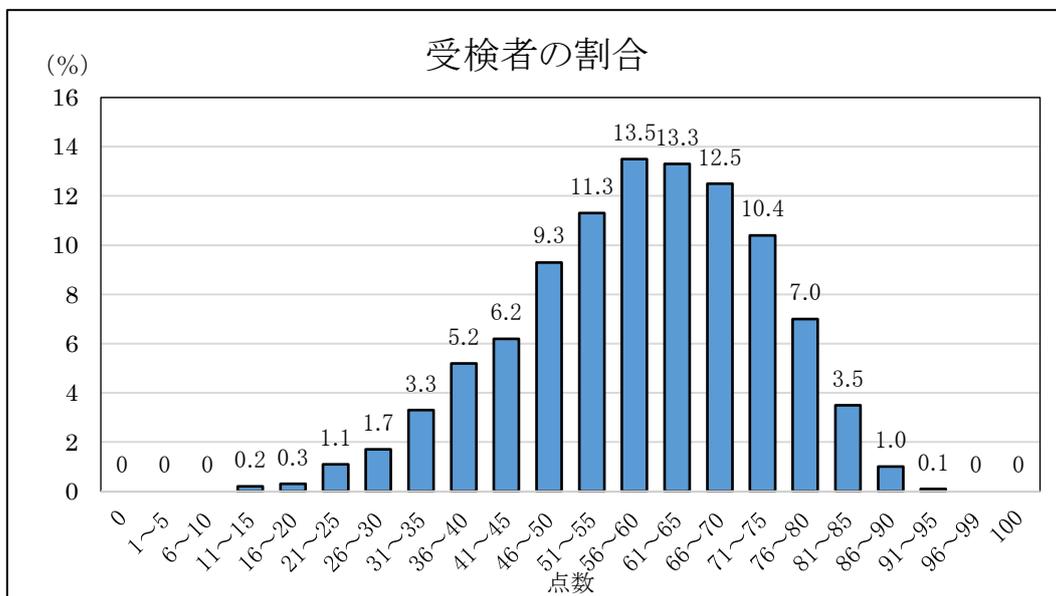
Ⅲ 教科別学力検査結果および抽出調査・分析の概要

○ 国 語

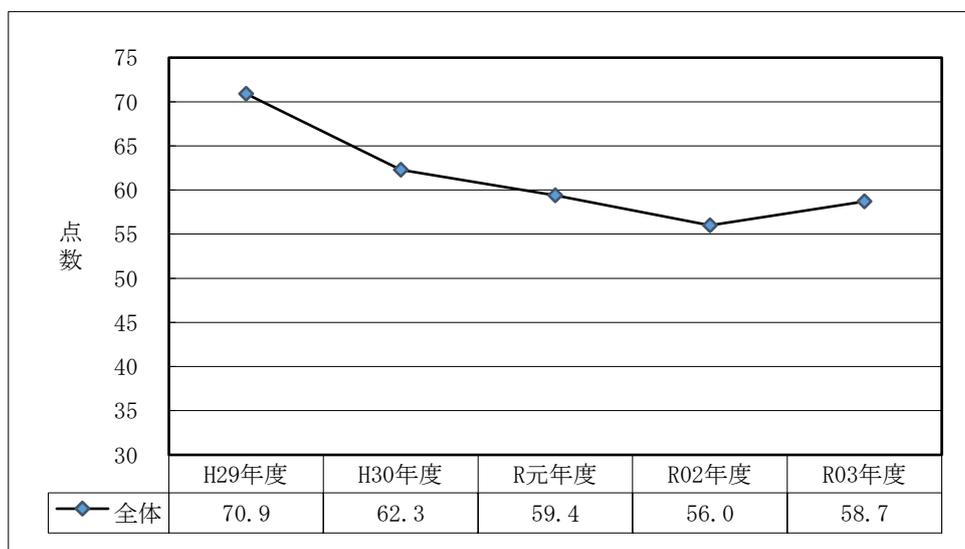
1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」から偏りがなく、同時に「関心・意欲・態度」、「知識・理解」の観点について検査できるようにした。
- ② 「話すこと・聞くこと」に関しては、スピーチの場面を取り上げ、話すための材料の選び方や分かりやすい語句を選択して話す力などを検査できるようにした。
- ③ 文学的な文章については、随想を取り上げ、語句の意味や文章構成、表現の仕方などに注意しながら読み、作者のものの見方、感じ方を読み取る力を検査できるようにした。
- ④ 古典については、古文を音読して場面の展開や登場人物の心情を捉え、内容の理解に役立てることができるかを検査できるようにした。
- ⑤ 説明的な文章については、文章全体と部分の関係などに注意して読むとともに、同じ話題について書かれた他の文章や図と読み比べ、文章の理解を深める力を検査できるようにした。

2 得点別に見た度数分布（調査対象：3,575人）



3 平均点の推移（調査対象：各年度の5教科受検者全員）



4 大問別の内容と抽出調査・分析

- 一 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字の読み書き・敬語の働きに関する知識）
一、二では、常用漢字の読みと書き取りについて出題した。学習指導要領で求める漢字の知識は概ね身に付いているといえるが、漢字の意味を正確に理解しておく必要がある「朗報」（48.6%）や「推移」（39.1%）の書き取りは正答率が低かった。三では、手紙の中で使われる敬語について、「書く」を尊敬語に改めることを求めたが、正答率は57.5%にとどまった。敬語の働きについての知識は日常生活、社会生活の中で重要であるので、実際に使える段階にまで確実に指導しておく必要がある。
- 二 話すこと・聞くこと
自分の思いや考えを話す際には、目的や場面により適切な材料を用いて、相手に分かりやすい話し方をする必要がある。その技能を測った三問のうち、選択式の一、二については良好な結果であったが、スピーチにおいて実際に話す言葉を考える三は正答率が25.4%と低かった。話の構成を意識して適切な語句を用いながら表現することに、十分習熟させたい。
- 三 文学的文章 出典『やがて満ちてくる光の』（新潮社）梨木香歩
文脈の中での語句の意味を選ぶ一の結果は良好であった。作者の心情を表している文を抜き出す二、内容と表現の仕方についての選択問題三も概ね良好であった。その一方で、四や五Bのような、指定字数で作者の思いを具体的に説明する問題については、いずれも25%程度の正答率であった。本年は随想であったが、小説の読み取りにおいても同様の傾向があり、継続した課題となっている。作者や登場人物の思いを読み取って自分でまとめるような活動に積極的に取り組むことができると、高等学校での学びにスムーズにつなげることができる。
- 四 古典（古文） 出典「今昔物語集」（『新 日本古典文学大系』）
中国の思想家荘子についての説話を題材とした。比較的平易な文章であり現代語訳を例年より減らして出題したが、二の正答率が63.4%であったことから、多くの受検生は大意を捉えることができたと思われる。歴史的仮名遣いについての一は二字を書き直す必要があったからか、例年より正答率が低く6割を切った。三の正答率が11.4%であったのは、「我に増さる者」について言及した受検生が少なかったためである。文中に登場する人や生き物の強弱あるいは大小関係についての把握がないために、深い理解に至っていない解答が多かった。
- 五 説明的文章 出典『新版 動的平衡』（小学館）福岡伸一
一～三及び五(1)のような選択、短答式の正答率は高く、筆者の考えを読み取ることについては概ね良好であったことが窺える。その中、筆者の考えをまとめ直すことを求めた四の記述問題、また、本文と同じ話題について述べた資料の内容について記述する五(2)では正答率が下がった。特に後者は2.5%と極めて低く、32%は無答であった。六では、今後どのように時間を使っていきたいかについて自分の考えを記述する力を測った。配点15点のうち、0～5点の分布の計が7.0%（前年度5.6%）、6～10点が74.5%（同70.4%）、11～15点が18.6%（同24.0%）であった。

5 指導の改善の視点

4で述べたとおり、基礎的な知識や読解について短答あるいは記号選択により解答する問題は引き続き良好であるが、それを自分でまとめ直したり、説明したりすること、また内容を深く理解することに課題があった。かつての検査問題に比べると、このような記述解答の問題が増えているので、日頃の指導においては、教材等で理解したことについて、さまざまな形式や視点で生徒自らが表現する活動によりいっそう取り組ませるとともに、教師の指導や他の生徒との対話、交流等を通して、より深い学びへとつなげていくことが望まれる。

6 令和3年度 正答率調査結果（国語）

